

すみだタウンミーティング 議事録

テーマ	みんなでつくろう！すみだの未来 第3回 すみだで行動したくなる
日時	令和3年12月12日（日）午前10時15分～正午
会場	すみだリバーサイドホール2階イベントホール／オンライン（Zoom）
参加者	37名（会場：23名、オンライン：14名）

＜はじめに＞

司会 すみだタウンミーティング みんなでつくろう！すみだの未来「すみだらしい『つながり』」を開催する。このタウンミーティングは、有志の区民で編成する企画運営委員会でいろいろなことを検討して開催している。

タウンミーティングとは区民の皆さんと区長の直接の対話を通して、皆さんのご意見や思いを、区政運営の参考にすることを目的として実施している。

今年度は「協治（ガバナンス）推進条例」10周年を記念して、この「協治（ガバナンス）」をメインテーマにタウンミーティングを年4回開催する。本日は3回目となるが、協治（ガバナンス）に必要な3つの力のうちの「行動する力」について、「すみだで行動したくなる」をテーマに、『すみだで』の行動に焦点をあてて、すみだの明るい未来に向けて、皆さんと区長とともに考えていきたい。

＜協治（ガバナンス）、「行動する力」の10年について説明＞

事務局（地域活動推進課） はじめに、協治（ガバナンス）について、説明させていただく。

墨田区における協治（ガバナンス）とは、「区民、地域団体、NPO、企業、区などの多様な主体が、それぞれの果たすべき役割と責任を分担し、ともに考え、ともに行動することで、地域の課題を解決していく社会のあり方」を言う。すみだで暮らしたり、働いたり、活動したりと、すみだに関わっている様々な人がつながって、みんなで力を合わせて、すみだを元気に、より魅力あふれるまちにしていく、ということが、「協治（ガバナンス）によるまちづくり」である。

そんなまちづくりを進めていくために、10年前の2011年に墨田区協治（ガバナンス）推進条例を策定した。協治（ガバナンス）を進めるために必要な3つの力を「知る力」「つながる力」「行動する力」としてありますが、今年度はこの3つの力をテーマとし、タウンミーティングを実施している。

これまで、「知る力」と「つながる力」をテーマに開催した。その中で皆さまからいただいたご意見の一部を、企画運営委員からご紹介する。

企画運営委員 7月11日に開催した、タウンミーティング第1回「知る力」と「知らせる力」では、すみだの良さや、すみだに関する情報を知るため・知らせるための工夫や課題について話し合った。

その中で、「情報に対する関心」や、情報弱者と呼ばれる方々への対応が、課題として挙

げられた。また、口コミやSNSの活用により、区民同士が相互に伝え合うことも必要ではないかとのご意見をいただいた。

第2回の「『すみだらしい』つながり」では、すでにあるコミュニティに入っていくことの難しさが、課題として挙げられた。また、ご自身の活動の中で、一つ一つの団体は小さくても、つながって力を合わせることで、大きな力が生まれるということを実感している、というお話もいただいた。

本日は、3つめのステップ「行動する力」がテーマとなる。「行動する力」では、身近なこと、できることから行動することが大切となる。行動することで「知る力」もアップし、「知る」「つながる」「行動する」が循環していく。また、行動するためには、参加の機会が開かれていることも重要となるため、誰もが「行動したい」と思えるような墨田区になっていくと良いなと思う。本日も、皆さまから様々なご意見をお聞きしたい。

事務局（地域活動推進課） 続いて、地域の「行動する力」と、それを支え、応援する仕組みなどについて、一部簡単にご紹介する。

一つ目は、すみだの力応援成事業、すみだの夢応援成事業。区民の皆さまや事業者の皆さまからの寄付金を活用して、地域のまちづくり活動を支援する制度であるが、この制度を活用し、地域の皆さまによって、多文化共生や子育て中のパパママに対する支援、子どもたちに遊びや学びの体験を提供するなどの取り組みが行われている。

二つ目は、すみだ食で繋がるネットワーク。区内では、食育や防災、地域交流など、様々な目的を持った子ども食堂・地域食堂が、地域の方やNPO等によって運営されている。そういった食事支援を行っている団体をつなげる、ネットワークづくりの支援を墨田区社会福祉協議会が行っている。

一方、地域産業等の分野における「行動する力」を支える仕組みとして、すみだビジネスサポートセンターを平成29年度に開設した。産業コーディネーターを配置し、墨田区で創業したい、事業を次世代につなぎたいという想いに対し、一緒に考えサポートを行っている。

また、「すみだモダン」は、“ものづくりのまち”としての産業ブランド力を国内外にPRしてきたが、今年度リニューアルを行い、「商品そのもの」だけではなく、その背景にある「活動」にも光を当て、「事業を新たに起こす・継続する」人を増やしていくことなどを目的に、産業プロモーションを推進している。

協治（ガバナンス）により、地域力を高めていくために、「行動する力」を支援し、参加の機会をこれからも広げていく。

<区長挨拶>

区長 皆さんおはようございます。お休みのところ朝早くからこうしてお集まりいただいたり、リモートでご参加をいただき、厚く御礼を申し上げます。

タウンミーティングは、区民の皆さんから直接お話をいただける機会、それから私も色々なお話・お答えをする機会として、就任以来この時間を大変大事にしている。今日も多くの皆さんにご参加いただけて、こういう事を通してより良い墨田区を作っていきたい。そして

皆さんのご意見が区政に反映するように、しっかり実施していきたいと思っている。

今年度は、協治（ガバナンス）推進条例10周年ということで、今回が3回目のタウンミーティングとなるが、第1回目の「知る力」、第2回目の「つながる力」でそれぞれ活発なご意見を頂戴している。本日は「行動する力」がテーマということなので、皆様方の日頃の行動や、コロナ禍でご苦労されたこと、ポストコロナでの社会経済活動の再生や感染対策など、そのような中で貴重なご意見を伺いたい。

コロナ禍で行動していただいたことにより、我々区の職員の励みになったり、温かい気持ちになったり、実際にボランティアにご参画いただいている方々が大変多くいらっしゃる。それを今日ご参加いただいている皆様、そしてその他に広がっていくように、本日も貴重なご意見をいただきたい。お答えできる部分にはしっかりお答えしたいと思っているので、本日もよろしく願います。また、すみだタウンミーティング企画運営委員会の皆様に感謝申し上げます。

【メインディスカッション】

＜教えて！行動 in すみだ＞

司会 本日のメインディスカッションのテーマは二つある。まず一つ目のテーマ「教えて！行動inすみだ」では、皆さんが「すみだで」行動・活動を始めた理由や、すみだで活動してよかったこと、あるいは課題について教えていただきたい。

区民A 墨田で生まれ60年以上いるが、きっかけは35歳の時に町会の役員になったこと。残念なことにそれから55歳まで、一番の最年少ということが町会の課題だと思う。その後フロンティアすみだ塾、次世代研究会会長、区の産業振興会議の廃棄物減量化委員など色々やらせていただき、墨田区のことをよくわかり役立っている。やはり人とのつながりを大事にしないといけないことを改めて感じられて良かった。

最近はすみだの力応援助成金をいただき、災害対応リヤカー移動図書館を始めた。当初は消防車で作ろうかと思ったがハードルが高いため、災害時も日常用にも使えるリヤカーとした。災害時には太陽光パネルでスマホ充電や殺菌装置等ができ、普段は移動図書館として地域をまわって図書館事業を行っている。先日も商店街のイベントに参加し、多くの方に本を借りていただいた。今後もしっかりつながりを大事にしていきたい。

区民B 墨田区を住みたいまち・訪れたいまちにするためにどうしたらいいかを、区長や区職員に提言することが今の一番のライフワーク。今まで町会が重要な役割を果たしてきたと思うが、今はインターネット等の通信手段が発達し、逆に団体になるとしがらみ等も出てくるので、あえて一人で活動している。本当に住みたいまちにしたいという考えで、このような場や区長さんへの手紙を出したりしている。

また、個人で活動しているが、決してつながらないというわけではなく、自然観察会や星空観察会の手伝いをしたり、人とのつながりも大切にして活動している。

区長 最初の方は、ご自分のお仕事と絡めながらも次の段階へ進み、地域活動と技術を生かして災害時のリヤカー移動図書館といった行動につなげていただけて本当にありがたい。

次の方は、個人でも色々と考えて、このような場や区長への手紙等でご意見をいただけて、そのようなお声も非常に大事だと思う。第1回・第2回でも「SNSを活用すればいいのではないか」という意見があり、これは行動においても、実際にFace to Faceで行う方法と、逆にオンラインで繋がって集まれる方法があるというのも、今の時代大変重要な手法だと思うので、参考にさせていただきたい。

区民C 今年度、消防団に入団したが、墨田区は消防団員が少なくどんどん増やさねばと思っている。また、消防団員の定年について、今年4月に70歳から75歳に引き上げたということで驚いた。友人のいる福生市は、定年が50歳で30代～40代の方が団員となる流れがあるようだ。墨田区は地盤が低いため水害の心配や、地震も多いので、金銭的・時間的・年齢的な問題は様々あるが、地域の安全・安心のために活動を続けていきたい。そしてやっぱり仲間を増やしていきたい。

区民D 防災は非常に強く意識している。きっかけは東日本大震災と親の介護が同時に始まったこと。SDGsでも住み続けられるまちづくりという視点があるが、その頃から住み続けられる墨田区を個人のテーマとして考えている。防火や耐震の面で自分のできる範囲で活動しているが、一番感じたのは墨田区の底力はすごくて様々な支援があること。高齢者支援総合センター、ユートリヤ、区議会議員、教育委員会事務局、生活衛生課、環境保全課、建築指導課、防災まちづくり課など、各所管で問い合わせに真摯に対応していただいたおかげで、自分としては耐火強化ができた。今後は低地ということで水害対策に取り組んでいきたい。

区長 私も20年間本所消防団で活動していたが、災害に強いまち・住み続けられるまちにしたいという中で、入団という行動を起こしていただき、地域住民の信頼の柱として、これからも先頭に立って頑張っていたいただきたいと思う。

次の方は、色々な団体や課と連携がとれたということでお褒めの言葉もいただき、我々の励みにもなる。今後も区民の皆さんと一緒に頑張ってほしいし、火事・地震・水害では区民の命を守るようしっかり取り組んでいかなければならない。コロナでは平時から有事へモードを切り替え、地域力によってしっかり対応できた。水害対策においても先手を取って、地域の力をお借りしながら区民の命を守るというテーマで、皆さんと一緒に行動していきたい。

区民E ガバナンスリーダーの4回生。7か所でボランティア活動しており、それが生きがいでもある。コロナで活動がなくなったこともあり、地域活動の一環で町会会館を利用してふれあいの場所を作りたいと町会に提案している。活動自体はコロナが収まらないと難しいと思うが、おしゃべり・将棋・編み物等ができる場所を作りたい。

区民F 大阪から墨田区へ引っ越して43年になる。2009年頃から区報をみて色々な集まりに参加し、早稲田大学との協働事業であるゼロからの起業、ガバナンスリーダー養成講座2期生、新図書館プロジェクトチーム（ひきふね図書館オープニング）、英語で語るすみだの魅力講座受講、手話講習会、ラジオ体操などに参加した。また、マンションの理事長をしていて、高齢化で年配の方のためにマンションに手すりをつけたところ喜ばれた。

区民G 長年スポーツボランティアをやっているが、コロナで2年ほど活動がない状況。先日久々に総合体育館で全日本ボクシング選手権のボランティアがあり、やはり良いなと思う反面、墨田は体育館や競技場が少ないと感じる。このような場所を増やすことで、もっとスポーツに対する醸成ができるのではないかな。

区長 初めの方は、本当にアグレッシブにボランティア活動をしていただいて、コロナによって少し離れてしまい、今は次の集まれる機会を町会に提案していると、終始ご努力をいただき大変ありがたい。

次の方も、色々な事に参加していただいて、マンションでもお住まいになっている皆様のご意見をお聞きして、それがまた色々な動きに繋がっていくのだと思う。図書館・英語・手話といった1つ1つが確立して、それからつながると、さらに強いネットワークとなり暮らしやすいまちになると思う。

先日、全日本ボクシング選手権を墨田区総合体育館で行い、ボクシング連盟の方からも「墨田区をボクシングの聖地にしたい」とありがたい言葉もいただいた。スポーツボランティアの皆さんがリングを拭いたり、清掃している姿を実際に拝見でき、こういう機会を増やしていかなければと思った。スポーツボランティアの方々には高い志があり、機会があれば準備ができていくという事なので、そのお気持ちをどのように行動に移していただけるか、ご活躍できる機会・タイミングをしっかりと練っていきたいと思う。

区民H フィリピン出身で2015年に外国人向け日本語学校で介護福祉士の資格を取得した。墨田区の色々な人が支えてくれたから感謝していて恩返ししたいと思っている。区内で活動しているすみだ多文化共生交流会のメンバーでもあり、外国人の声を墨田区につなげたり、日本人の住民と同じように参加や行動ができるように、何とかしていきたい。

区民I 墨田区の「人」マークに非常に誇りを持っている。おそらく他区でも東京都でも日本国内ないと思う。今回コロナで日本・墨田区が分断されたが、この「人」を持ってつながりを進めるのは、ぜひ墨田区がファーストランナーとなって頑張ってもらいたい。

区民J 印刷業を営み印刷組合に加入。15年ほど前から墨田区に対し情報のユニバーサルデザインを提唱しているがなかなか普及しない。印刷組合の全国組織でこの運動を広めて、全国各地に普及してきている。高齢者、障害を持っている方、外国の方、子どもに1つの

情報媒体で伝わるという考え方を提唱している。今年、障害者差別解消法が改正され、行政も民間も義務化されたので、区の職員はもちろん、一般の方もユニバーサルデザインの考え方を勉強できる講習会等をやっていたら、多様な文化の方にも情報が伝わる区になると思う。

区長 今年度、SDGs 未来都市ということで墨田区が認定をいただいた。今までも多文化共生・多様性というテーマを区政に反映しなければということをしてきたが、この認定により改めてその目標に基づいて、自覚を持って色々な事をやっていきたいと思っていた。

その中で、日本語学校で資格を取って今活動していることへの感謝のお言葉と、自分の経歴を次に活かしていきたいというお言葉をいただき、大変素晴らしいと思うし、私たちにもそれを活かせるお手伝いをさせていただきたいと思う。

それからシティプロモーションのロゴは、葛飾北斎の「画狂老人」の「人」という字を使わせていただき、べろ藍の色で作ったもの。北斎が墨田のルーツでもあるモノづくりという下町の芸術を持った方ということでモチーフとした。人つながる墨田区として、下町人情を活かしていけるように、みんなで共有できるように、という思いで作った。外国人の方や多様な皆さんとのつながり全てを表したロゴだと考えているので、シティプロモーションを展開して様々なところにつなげていきたい。

最後は、ユニバーサルデザインで情報を伝えることが、現在は義務化されたというなかで、区としてもわかりやすく伝えることの重要性をしっかりと認識して区政を担っていくことが、大変大事な時期にあるんだと改めて思った。コンテストは、現段階または来年度に、どんなふうにどのような形で表していけるか、検討していきたいので、その際はまたご指導いただけたらと思う。

区民K 町会長を務めている。行動は、PTA、自治会、神社、警察関係など、組織に入ってから始まることが多いと思う。私の自治会では、高齢化がすごく進んでいて平均年齢70歳となっている。毎年同じような活動をしていたところ、高齢化対策が遅れてしまい、不安やどうにかしなければという思いだけが溜まっていた。このままではどうしようもないと会長に立候補して行動を起こしてみると、とても色々な事ができた。聞く耳を持つ、動く、発言する、そうすると色々な所（外部団体、連合町会、社協、消防警察）から声がかかるので、それに対してまた行動すれば良いと思う。

区民L 15年頃前に、みどりコミュニティセンターの放課後活動で子供たちを見てくれないかと言われ、それから毎週地域の子供たちの見守りをしている。学校や先生に言えないこともこっそり教えてくれたり、そういう言葉を受け止めてアドバイスしたりしている。

区長 まず自治会の件で、多くの方がお住まいになっている中で、不具合がなければ毎日進んでいくけれども、このままでは高齢化で大変なことになると行動を起こしてそれが色々な所とつながってきたことは、大変大事で勇気ある事だと非常に参考になる。高齢化に向け

た対策として区政でもヒントになるのではないかと思います。行動に移す、聞く耳を持つ、発言・発信していくという地道な部分が重要で、各地でもそういう動きが出てくると盛り上がるのではと感じた。

次の方は、子供たちを惹きつける技術をお持ちで、今後子供たちが成長していく中で小さいときに地域の方から色々な事を教えてもらったなあと、それが思い出でもありTHE墨田区みたいなどころもあると思うので、粘り強く活動していただきたい。学校やPTAとつながり、なにより子供たちを対象にしている事が、大事な活動の一つだと感謝したい。

<提案！これからの『行動』>

司会 続いて二つ目のテーマ「提案！これからの『行動』」では、これからについてのご意見をいただきたい。皆さんがこれからすみだでどんな行動をしてみたいとか、こんなことを今考えているとか、或いは新しく行動する人たちをこんな風に応援したいなど、未来に向けたお話をいただけたらと思う。また、区への要望やこんなこともやってほしいということも含め、これからについてのご提案をお願いします。

区民M 全日本ボクシング選手権大会のおもてなしサポーターとして従事し、協会の方から今後も毎年墨田区でやっていくというお話を聞いた。今回は無観客だったため運営はサポーターだけで間に合ったが、今後有観客となると人数が不足する。また、今回大会を行っていることがほとんど知られていなかったのので、ちゃんと広く知らせたり、隣接の錦糸公園で例えば町会がテントを出して催し物をしたり、墨田の工芸品を紹介するなどして、スポーツをきっかけに色々な形でつながる方法があると思ったので提案したい。

区民N 生まれも育ちも墨田区の紙芝居屋。食育全国大会に出演したり、区役所アトリウムで紙芝居をしたり、区外でも定期公演を行っている。コロナ禍で分断が続いたので、今後はポストコロナで感染予防をしながらもやっぱりつなげていく紙芝居をしたい。紙芝居は言葉の壁も越えるので、世界中の人、子どもも大人もみんなひっくるめてコミュニケーションをとりながらつながれる場だと思う。小学校の放課後支援事業で子供たちと紙芝居を作るワークショップもやっていて、今まではいただく話に応えるばかりだったが、これからは自分でもっと発信して、子どもたちが安心して自分を出せる場を提供したいと思う。

区長 お二人のご意見で共通していたのが参画意識で、とにかく区のために行動したいという熱い気持ちを感じた。スポーツ競技が今後有観客となってにぎわいが生まれたときに、そこからさらに広がることを想定してご提案いただいた。基本としてはスポーツボランティアが活躍できる機会をしっかりと作っていき、そのうえで区を活性化させる催しができればぜひやっていきたいと思う。

それから紙芝居の持つ力は非常に大きく、これからの時代を生きる子どもたちにテーマやヒントとなるようなことを引き続きやっていただけたらと思う。作成する段階から、実際に

紙芝居をやっているところに人が集まりにぎわいが生まれるまでの光景がイメージでき、とても良いと思う。今は公園にも子供たちが集まってにぎわいを取り戻してきているので、ぜひ様々なテーマで、子供たちのこれからにつながる、またすみだのSDGsにつながるようなものを見せていただけたらと思う。

区民O 4月に入学したiUの学生。10月末にiUフェスという学園祭を行い、2日間で600名弱の方に来ていただいた。これから行動していきたいことは、大学としても墨田区の皆さんや行政とのつながりがまだ薄いところがあるので、先ほどの紙芝居やスポーツイベントなど地域とのつながりを大事にした学園祭というのを来年も運営してみたい。

区民P バasketボール協会の役員で中学の指導も行っている。ライフマネージャーの資格を取り、お片付けを通じて生活の安心・安全時間づくりを提案しようと今年起業した。これから活動していきたいことは、①お片付けを通じて高齢者の一人暮らしの方をターゲットとした減災・見守り、②お片付けを通じて子供たちが夢に向かって準備する習慣づくりを提案したい。①の減災・見守りについては、区のふるさと納税にこのサービスを追加していただき、みなさんに安心・安全で住みやすいまちのすみだを提案したいと思う。

区長 iUの学生さんは、高齢者のスマホ使い方教室や、子どもたちのアプリ開発のお手伝いなど、少しずつ絡みが出てきている。iUも千葉大学も地域の方は非常に興味を持っているので、コロナが収束してあの場所が今後どのように活性化していくのかと本当に期待している。具体的につながる方法やテーマは、iUの皆さんの意見とマッチングさせてお互いWINWINとなるように発展させていきたいので、遠慮なくご提案いただきたい。若い人の発想というのを大事にしたいと思っている。

お二人目は、ふるさと納税の返礼品にお片付けというアイデアをいただけて、大変面白い提案だと思う。お片付けはテレビ番組等でたまにやっていたりするが、子どもたちの夢に向けたお片付けや、お困りになっている高齢者の方のためのお片付けというのは、行政としても課題だと思う。こういった行動・課題解決は新たな気づきとなる提案でもあり、区民生活でも結構あるお話だと思った。

区民Q すみだ多文化共生交流会のメンバー。先日コロナ禍で生活に困っている外国人の方から、相談先がわからなかったり、うまく日本語で説明できないとの相談を受けた。その際、実際に2～30年日本で過ごして同じような困った経験をしてきたので、単なる通訳だけでなく生活相談にも対応することができた。そのように困った外国人の方が多いのではないかと思うので、少しでもそのような方の対応ができるように、区内在住で地域活動をしたいという外国人のネットワークを作りたいと思っている。墨田区は現在13000人の外国人がいるが、横のつながりがなく、頼る人がいない外国人が多いのではないかと思うので、それを解決していくのが今後の課題と思っている。

区民R 情報誌Avenueの編集をして27年間墨田区を隅から隅まで走り回っている。地域の皆様の活動をご紹介することが使命だと思っている。色んな素敵なお方にお会いできて、お役に立てているかなと思いつながらなっているので、Avenueで紹介してほしいというお話があったら是非お申し出ください。

区民S 提案書という形で受付でも渡しているが、最近感じているのは選挙の投票率が低いこと。最近Instagramを始めて、台東区では選挙の投票証明で各商店などのサービスを受けられると目にして、同じことを単独で初めてやってみたら7名の方からご参加いただいた。そのような投票率がアップするような仕組みを墨田区でもやると面白いと思う。

区長 外国人の方が相談できる体制があって、自分だけで困ってしまうことがない区というのは大事だと思っていて、ネットワークというかまず受け皿となっただけなのは大変ありがたい。区政とも関連性があり、墨田区にいて苦しんだり困っていることを相談できるということが一番大事なので、また色々ご提案いただきたい。横のつながりがない事に気づかれたとのことで、こちらこそ是非つながっていただきたいと思う。例えば、錦糸町の飲食店街では外国人の方が一緒にゴミ拾いや客引き防止活動をしてくれたり、段々に区政参画をする方が増えているので、今後ご理解・ご協力いただけたらと思う。

Avenueは長い歴史を持ちながら、「行動する」だけでなく前回の「知る」という意味でもご協力いただいている。行動したい人がAvenueを通じてつながっていくのは大事だと思う。引き続き地道な活動で行動する人たちの力になっていただけたらありがたい。

選挙の投票率アップは非常に重要で、投票率が下がっていく傾向をなんとかしなければならぬと思っている。従来型ではなかなか簡単に回復しない感じもあるので、今回のようなご提案やその他の事例も色々参考にして、改めて選挙の重要性を捉えていきたい。

区長総括 いつも思うが、こうしてご意見をいただいて、あっという間に時間が過ぎている。もっと色んな方のお話をお伺いして丁寧にお答えしなければと思うが、限られた時間のなかで残念ながらこの辺で終わりとさせていただく。感想やご提案はアンケート等にご記入いただければ私も目を通させていただくので、本日発言できなかった皆様にはお詫びとそのような形をお願いしたいと思う。相変わらずタウンミーティングは参考になるというのが率直な感想で、こうして相互交流ができるのはいい機会だと思う。これからは墨田区を想い、そして参画していただくことが、みんなで墨田区を作っていくことだと引き続きご理解いただきたい。

コロナ対策でも色々お言葉をいただいていつも励みにしているが、一つはすみだの地域力があるから前向きでスピード感を持った対応ができているのだと思う。もう一つは情報発信で、しっかり徹底的に発信するという作業をやっていくことが区民の皆さんの安心安全につながると思うので、引き続き取り組んでいく。実は今回、第3回目の接種や今後のコロナ対策について、区民の皆さんにも色々なことをお願いしてお力添えをいただけないかということで、様々な形で募らせていただいている。これは、ポストコロナの時期がきたときに、自

分も参画してお手伝いしたということが、さらに墨田区みんなでポストコロナの前進にむかえるのではないかという意味合いも含んでいる。

改めて申し上げるが、区役所が墨田区を作っていくわけではなく、区民の皆さんと一緒に墨田区をさらに暮らし続けたい、働き続けたい、訪れたいまちにしていくんだという思いで臨んでいきたい。そういう思いで2月19日のシンポジウム&タウンミーティングもご期待いただき、もっと多くの皆さんにご参加いただけたらと思う。本当に皆さんどうもありがとうございました。

以上